

「すべてが神の計画」

～神は二つのものを一つに～

マルコ 3:13～19

■ あなたの心はどこにありますか…

嬉しいこと、悲しいこと、苦しいこと、辛いこと…様々なことが次々と起こるので感情はいつも右往左往させられています。また、プロパガンダといわれる偽りの情報が流されているこの世界の中で、情報というものが私たちの心に押し迫って来るものがあります。このような中で、何を見、何を感じていますか？あなたの心はあなたのただ中にありますか？その心は神様と共存しているのでしょうか？

■ アブラハム・リンカーン…

アメリカの大統領で最も影響を与えたのはアブラハム・リンカーンです。黒人差別をやめると宣言し、奴隷制度によって財産と事業を構築していた南部から大変な批判を受けました。この時、南北戦争が起こり、第一次・第二次世界大戦で亡くなったアメリカ人の倍の人々が亡くなりました。アブラハム・リンカーンはこのような中であっても「何歳まで生きたかは重要ではない。いかにして生きたかが重要だ。」という言葉を生きたテーマとし、批判を受ける状況の中のインタビューでこのように語りました。「バラの中にとげがあるのか。それともとげの中にバラが咲いたのか。私はいつもこのことを考える。」どちらも同じように感じられる言葉ですが全く違います。「アダムとエバが罪を犯して、この世界は完全に罪の餌食になっている。そんないばらの世界の中でたくさんの悲劇が起こり、たくさんの矛盾が起こる。それを解決するためには多くの傷が起こり、痛み（南北戦争で失われた命）が起こってしまう。しかし、その中で神はバラの花を咲かせるのだ。」そのようにアブラハム・リンカーンは語ったのです。私たちの人生も物事をどう見るかで大きく違います。

■ すべては神の計画の中に…

神様は私たちにはわからないたくさんの計画を着々と行っておられます。しかし、私たちがそれを祈りの中で聴けなければ神の計画を壊す恐れがあるのです。これまで11人の弟子の名前を通して語られてきました。私たちの人生の中で起こるすべてのことを神様は知っておられ、すべてに神様の計画があり、意味があります。けれど、その神様の計画を自分の思いで成そうとする時、失敗してしまうのです。そのようにしてしまったのが今日語られる12番目の弟子「ユダ」です。けれど、神様はそんなユダのこともよくご存知で、彼の失敗さえもすでに神様の益になるようになっていたのです。ただ、一つ大切なことは、失敗した時にどうするかということなのです。

神の計画は一人ひとりの名前の中に刻まれてきているということがずっと語られてきました。すべては神の計画ですが、その中で起こる理不尽そのものは神の計画ではありません。アダムとエバが犯した罪は神に聴いて判断する存在だった人間が、善悪を知る木の実を食べ自分で善悪を判断するようになったことです。そして、正義というものは神にしかなく、本来、私たち人間が正義を使うことができるのは、正義なる神様を見て自分がどうであるかを見る時だけですが、本来持っていないその正義を自分の善悪の判断で振りかざすのでその矛先は自分ではなく相手に向くのです。このような人間同士の中で理不尽というものが起こっていくのです。けれど、神様はこんなずれた私たちに「戻れ」と言ってくださいました。そんな神様が何かをされる時には理不尽の痛みの中で素晴らしい恵み、奇跡をなされるのです。この地ではいつまでも理不尽が続きます。しかし、その中で神様を信じ、計画を受け入れ、立ち向かい戦った人だけがその計画の愛の全能さを人々に証しすることができ、その言葉によって人は変えられていくのです。これが聖書の言おうとする最大の奇跡なのです。

■ イスカリオテ・ユダ…

ユダの名前にはイスカリオテ（ケリヨテ）という地域名がつけられています。イスカリオテとは「神の取り計らい」という意味があります。そしてユダという名前は「賛美する者」という意味があり

ます。ユダという名前がはじめて出て来るのは、創世記のヤコブの時代です。ヤコブの妻であったレアは、妹のラケルの方を愛しているヤコブからどんなに愛されたいと願っても愛を受けられないという理不尽と痛みの中이었습니다。このレアが自分の女奴隷を通してユダが生まれた時、「逆境の中で神は憐み、奇蹟をもって喜びを与えて下さった」と歌いました。神様は理不尽の中で奇跡を起こされます。

また、ユダには「イエスを裏切った」ということがわざわざつけられています。この「裏切った」という言葉には「サガール(閉じる)」という意味があります。これは、神がエバを造るために、アダムを眠らせ、あばら骨をとった後、その場所の肉を「ふさがれた(手術を完了した)」という言葉です。そして、イエス・キリストが十字架にかかれ「完了した」と言われたことと同じなのです。ユダが神を裏切ることによって神の計画を完了させたということなのです。つまり、私たちが神を裏切ったから神は神の計画を完了したのです。私たちの裏切りという悪行自体が神の計画を完了する入口だと言っているわけです。また、ユダの存在はアダムの妻エバの存在として描かれています。すなわち、「裏切り者の女(エバ)＝教会＝私たち」をもう一度花婿であるキリストが迎えに来る時には完了した姿で私たちをまったく赦して白い衣を着せて、愛して迎えるのだと言っているのです。神様はそれほどまでに綿密に計画しておられるのです。けれど、ユダは最後に間違った方向にいてしまいました。他の弟子達は裏切った後、戻りました。けれど、ユダは自分で命を絶ってしまいました。絶ってしまうと戻れません。私たちの心の中にもいまだに「死にたい。自分なんかいない方がいい。」という思いがくるはずですが、そんな時、気を付けてください。これこそが悪魔の最大の誘惑の声です。死ぬか生きるかは私たちの範疇にはまったくありません。生かされているうちには生きなければなりません。そして、命が終わった日には喜んで天国に帰るのです。どんな悪、失敗であっても十字架に目を向ける私たちが神様は赦されるのです。悪魔はユダに「お前は神を裏切ったから生きる価値はない。」と語りかけたはずですが、けれど、違うのです。「完了した」のです。裏切らなかつたら奇跡は起こらないのです。ですから、この世の理不尽の中で神様は私たちに奇跡をもたらすためにその裏切りをも犯す前からゆるし、計画されたのです。「裏切り者、失敗者でいい。だから私は十字架にかかるのだ」と神様は言うのです。

■ 私たちは人生を選べます…

失敗、何故このようなことをやっているのだろうと思う状況、頑張っているにも孤独を感じる…様々なことが起こります。けれど、神様は友を与え、決して一人ではないことを教え、太陽や月や星…天地万物を通して神様を思い返し、本来の姿に帰っていく道を与えてくださっています。ユダも本当はそれができたのです。けれど彼はそれを選ぶことができませんでした。生きるか死ぬかの権利は私たちの範疇にはありませんが、神様に任せるか、自分で決めるか…その決断だけは私たちの内にあります

■ お祈りしましょう

あることを知ることができるよう。そして、失敗者である私を「あなたはそれでいい、あなたは私の花嫁なのだ」と言ってくださるあなたの愛があるので、希望があるので何度倒れても悔い改めて立ち上がることができることを感謝します。もう一度あなたの十字架を思い起こさせてください。そして、あなたにすべてを委ねて任せる人生を選ぶことができますように。

(要約者:全本みどり)

(2022年10月30日)